平成３０年　９月　３日
京都市立朱雀第七小学校
校長　鵜飼　洋子

平成３０年度　全国学力・学習状況調査の結果
★教科に関する調査の結果★

４月１７日に，６年生５０名を対象に実施されました。教科に関する調査問題としては，以下の通りになっています。
○国語Ａ・算数Ａ：基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題
○国語Ｂ・算数Ｂ：基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題
○理科
　主として「知識」に関する問題：理科に関する基本的な見方や概念などについて「知識」として問うもの
　　理科に関する基本的な観察・実験の「技能」について知識として問うもの
　主として「活用」に関する問題：理科に関する知識・技能を「適用」することを問うもの
　　理科に関する知識・技能を用いて，「分析」「構想」「改善」 することを問うもの

総合結果（国語・算数・理科）

すべてにおいて**全国平均を上回る結果**となっています。設問別にみても，国語・算数ともにほとんどの設問で，正答率が全国平均を上回っていました。

無解答率についても，全国的にも記述式の問題において高くなる傾向があるのですが，本校でも，記述式の問題における無解答率がやや高くなっているものの，**全国平均より無解答率ははるかに低くなっています。**このことは，児童質問紙で「解答を文章など書く問題がありましたが，どのように解答しましたか」の問いに対して，「最後まで解答を書こうと努力した」を選んでいる割合が全国を上回っていることからも分かります。また，「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか」というに対して，「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」を選んでいる割合が全国をはるかに上回っていることから，授業の中で，意図的に自分の思いや考えを書く活動を位置付けることにより，書くことへの抵抗を少なくしていることがうかがえる。

国　語　科　よ　り

国語Ａ：基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題

すべての設問で全国平均を上回っています。漢字を文の中で正しく使う問題（設問８）では，高い正答率を示しています。「せっ極的に」を漢字に直す設問では，全国平均は上回っているものの，やや低い正答率となっています。漢字を書く力として，書かれている内容や文の意味を理解し，文の中で漢字を正しく使うことが重要です。家庭学習で漢字の練習を取り入れてきていますが，実際自分が文章を読んだり書いたりする時に，十分使いこなせているとは言えません。今後，家庭学習のあり方を見直し，ただ漢字を覚えるだけではなく，日常的に文や文章の中で使うことができるようにすることを重視していきます。書いた文章を読み返し，文や文章の中で果たす漢字の意味をとらえた上で，正しく使えているかどうかを自分で評価することができるようにします。また，漢字を習得し語彙を広げるためには，国語辞典や漢字辞典を日常的に利用して調べる習慣を付けることも重要です。必要なときにはいつでも辞書が手元にあり使えるような環境をつくっていきます。

さらに，文章の中から，主部と述部とのつながりが合っていない文を選択し，正しく書き直す問題（設問５）で，全国平均を上回っているものの，やや低い正答率となっています。相手や目的に応じ，伝えたいことが伝わるように文章を書くためには，それぞれの文の中での語句の役割や，語句相互の関係に気を付けて，文をどのように組み立てればよいのかを考えることが大切です。主語と述語，修飾と被修飾との関係をはっきりさせるとともに，「だれが」「いつ」「どこで」「なにを」「どのように」「なぜ」などという文の構成について，理解できるようにする必要があります。

国語Ｂ：基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題

ほとんどの設問で全国平均を上回っています。「話し合いの様子の一部」における発言の意図として，適切なものを選択する問題（設問１一）及び「おすすめする文章」を書くときの工夫として適切なものを選択する問題（設問２三）において全国平均を上回る結果を示しています。授業において，自分の考えを書いたり話したり，話し合ったりする際，よりよくするために何が大切か考えてきた成果が，正答率の高さとなって表れています。これに関連する児童質問紙を見ると，「授業で自分の考えを発表する機会では，自分の考えがうまく伝わるよう，資料や文章，話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか」「学級の友達との間で話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができていると思いますか」の問いに対して，「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を選んでいる割合が全国を上回っています。

しかし，「おすすめする文章に【保健室の先生の話から分かったこと】を取り入れて詳しく書く」問題（設問２二）において全国平均を下回る正答率となっています。この問題では，与えられた条件に合わせて必要な情報を収集して書くことが求められています。授業で行っている書く活動において，目的や意図に応じて的確に書くことができているかを自己評価する力を身に付ける必要があるでしょう。そのために，書いたものを読み直す際に，「必要な事柄を書くことができているか」「相手に分かりやすい表現になっているか」等，視点を明確にして評価できるようにしていきたいと思います。

他にも，「話し合いの場面で，話し手の意図を捉えながら聞き，自分の意見と比べるなどして考えをまとめる」問題（設問１三）においても，全国平均は上回るものの，正答率が 40%以下と低くなっています。話し合いの場面で，自分の意見と比べて考えたことを発表するには，相手の話の内容を十分聞き取り，自分の考えと比べ，共通点や相違点，関連して考えたことなどを整理し，自分の考えをまとめることが求められます。一人一人が主体的に参加する話し合いになるように指導していきます。

算　数　科　よ　り

算数Ａ：基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題

全国的に算数 A 問題の正答率が低くなっています。従来出題されてきた四則計算の問題がなく，少数の除法の意味について理解し，「答えが 12÷0.8 の式で求められる問題を選ぶ」（設問２）が計算の能力をみる問題として出題されています。全国平均は上回っているものの正答率は 55%程度となっています。計算の指導に当たっては，計算に習熟することと共に，計算の意味を理解したり計算の仕方を考えたりする学習も大切にしていきます。特に，少数の乗法・除法を苦手とする傾向があるため丁寧に指導していきます。

「数量関係」の領域で，全国平均を下回る問題が見られます。１つは，「除法で表すことができる二つの数量の関係の理解をみる問題」（設問１(1)）です。「0.4mの針金の重さが 60ｇ」の時に，「0.2mと 0.1mの針金の重さ」を求める問題です。演算決定して，正しく計算する必要があります。もう１つは，「百分率を求める問題」（設問８）です。「200 人のうち 80 人が小学生のとき，小学生の人数の割合は全体の何%か」選ぶ問題です。ここでは，割合が（比較量）÷（基準量）で求められること，及び基準量を 100 として，それに対する割合で表す方法が百分率であることを理解していることが求められます。さらに，集まった人数 200 人が基準量であり，小学生の人数 80 人が比較量と捉えることが求められます。

算数Ｂ：基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題

すべての設問で全国平均を大きく上回っています。算数の学習では，言葉や数，式，図，表，グラフなどを用いて，筋道立てて説明することが求められます。今回も記述の問題が出題されていますが，全国平均を上回っているものの，正答率が 50%に満たないという結果の設問があります。その問題においては他の問題と比べて無解答率が高くなっています。「メモ１とメモ２はそれぞれ，グラフについてどのようなことに着目して書かれているのかを書く」問題（設問３(1)）で，メモの情報とグラフを関連付け，総数や変化に着目していることを解釈し，それを記述することが求められています。問題を解決するために見通しをもち，筋道立てて考え，その考え方や解決方法を説明することが大切です。

算数で学んだ知識・理解を，生活場面や他の教科の学習の中で活用することが求められています。児童質問紙に，「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」「算数の授業で学習したことは，将来，社会に出たときに役立つと思いますか」という問いがあり，「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えている児童が全国平均を上回っています。これからも，算数的なものの見方・考え方が様々な場面で生かせるように取り組んでいきたいと思います。

理　科　よ　り

主として「知識」に関する問題では，すべての設問で全国平均を大きく上回る結果を示しています。科学的な言葉や概念を理解しているかどうかをみる問題が２つあります。設問（１(3)）では，「うでを曲げたりすることができる骨と骨のつなぎ目」という情報から「関節（かんせつ）」という言葉を記述することが適切です。設問（２(1)）では，「流れる水の土や石を積もらせるはたらき」を表す言葉として，「堆積」を示す選択肢を選ぶことが適切です。

設問（４(1)）では，正しくろ過するためには，ろ過する液がろ紙を通るようにする必要があることを使って，ろ紙に穴を開けないようにガラス棒をろ紙に当てる位置を考えながら，ろ過する液がろ紙の高さを超えないように注ぎ，ろ過する液がろ紙を通過せずにビーカーへ流れ落ちることのない選択肢を選ぶことが適切です。器具の操作は，観察，実験で実際に使用することを通して身に付くものです。そのため，理科の授業では器具を使用する場面を保障すること，器具の操作にどのような意味があるのかを理解できるようにすることの重要性について意識して授業を改善していく必要があります。

主として「活用」に関する問題では，ほとんどの設問**で**全国平均を上回る結果を示しています。「人の腕を対象として，腕が曲がる仕組みについて，示された模型を使って説明できる内容を問う問題（設問１(4)）」では，人の腕が曲がる仕組みを模型に適用する必要があります。「上流側の天気と下流側の川の水位を対象として，上流側の雲の様子や気象レーダーで示された雨の降っている所と下流側の川の水位の変化から，上流側の天気と下流側の川の水位の関係について問う問題（設問２(4)）」では，より妥当な考えをつくりだすために，実際に観察した内容や調べた結果など複数の情報を関係付けながら，多面的に分析して考察することが求められています。

設問（２(3)）では，全国平均を上回っているものの正答率が 30%に満たない結果となっています。川を流れる水の量が増えたときの流れる水の働きによる土地の変化について，より妥当な考えをつくりだすために，水の量を増やす前の棒の様子と増やした後の棒の様子とを比較し，一度に流す水の量を増やしたという「原因」と棒の様子が変化したという「結果」で捉える見方を働かせて分析し，考察したことを説明する問題です。より妥当な考えをつくりだすために，実験結果を基に分析して考察し，その内容を記述することを授業において積極的に行っていく必要があります。

ご協力のお願い

各教科における，本校児童の課題につきましては，本調査だけでなく，ジョイントプログラム等に関する分析等も行いながら，より一層の授業改善に努めてまいります。学力は，学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくものであり，望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。引き続きご協力よろしくお願いいたします。

★児童質問紙から見える子どもの様子★

６年生で今春４月に実施した標記調査では，学力調査と同時に学習状況に関する６２項目のアンケートが実施されています。その調査内容は，大きく分類すると次のようになります。

規範意識		（４）～（６）
自尊感情		（１）（３）
学習に対する関心・意欲・態度	算数への関心など	（２７）～（３６）
	理科への関心など	（３８）～（４５） （４７）～（５０） （５２）（５３）
	地域・社会への関心など	（１９）～（２６）
学習の基盤となる活動・習慣	生活習慣	（７）～（９）
	学習習慣	（１０）～（１２）

以下にこの調査から見えてきた本校児童の特徴をお知らせいたします。

「早寝早起き朝ごはん」は，生活リズムの基本です

○**「毎日朝食を食べている」**児童の割合が，「している」75.5％と全国平均をやや下回っています。「どちらかといえばしている」18.4％を合わせるとほぼ全国平均と同じ結果です。わずかではありますが，「あまり食べていない」「まったく食べていない」と答えている児童がいることが気になります。

○**「毎日同じくらいの時刻に寝ている」**児童の割合が，「している」46.9％と全国平均を上回っていますが，「どちらかといえばしている」24.5％で，合わせると全国平均よりも少なくなっています。

○**「毎日同じくらいの時刻に起きている」**児童の割合が，「している」71.4％と全国平均を上回っていますが，「どちらかといえばしている」14.3％で，合わせるとやや全国平均よりも少なくなっています。

⇒早寝早起きの習慣については，もう一度家庭で確認ください。生活リズムは，その日の学校生活にも大きく影響すると考えられます。**ゆとりをもって起床**できるようにし，**バランスの良い朝ご飯**が食べられるようにしてください。

挑戦する気持ちや達成感が，子どもの意欲を高めます

○**「自分には，よいところがあると思う」**児童の割合が，「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」を合わせると，97.9％で，全国平均84.0％より高くなっています。

○**「先生はあなたのよいところを認めてくれる」**児童の割合が，「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」を合わせると，97.9％で，全国平均85.3％より高くなっています。

○**「将来の夢や目標を持っている」児童の**割合が，「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」を合わせると，89.8％で，全国平均85.1％より高くなっています。

⇒**自尊感情の高い子ども**が多いことが伺えます。成長するためにはとても大切なことです。ものごとを最後までやりとげた達成感や難しいことに挑戦した経験が，子どもの自信につながります。また，周りの大人がそれを認めることがその効果を高めます。学習や学校の様々な取組を通して，子どもたちが自己有用感を高めることができるように工夫していきます。ご家庭でもお子様の良いところは意識的にほめる等の工夫をしてください。

家庭学習や読書をする子は学力の伸びが違います！

○**「１日当たりどれくらいの時間，勉強しますか」**という設問に対して，二極化の傾向が見られます。具体的には，１時間以上勉強しているとする児童は全国平均を上回っているのに対して，「全くしない」「３０分より少ない」児童も全国平均を上回っています。**「自分で計画を立てて勉強しているか。」「家で学校の宿題をしているか。」「予習・復習をしているか。」**という設問に対しては，全国平均を上回る結果となっています。家庭学習を自主的にしている子は増えてきているが，その内容はやり方については今後見守っていく必要があります。

⇒家庭で進んで勉強できる事をめざして，学校としては**「家庭学習の手引き」を作成し**，家庭学習の大切さを伝えるとともに，主体的に行う学習のヒントを示しています。ご家庭におかれましては，生活習慣の中に発達段階に応じた学習時間を位置づける等のご指導をお願いします。

○**「１日当たりどれくらいの時間，読書しますか」**という設問に対して，全国平均より低い傾向にあります。30 分以上と答えている児童が 40.8%で，全国平均 41.1%となっています。「１０分以上３０分より少ない」と答えた児童が 30.6%と多くなっています。学校図書館を利用している数も決して多いとは言えません。

⇒学校図書館では，子どもが本を手にしやすいようにテーマを決めて本を並べるなどの工夫をしています。また，国語の学習においても，教科書に載っているお話を読むだけで終わるのではなく，関連のある本を並行読書する学習を行ってきています。さらに，本を読む楽しさを実感できるように取り組んでいきたいと思います。

学校は公の場　ルールを守れる子どもに！

○**「学校のきまりを守っているか」**という設問に対して，「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせて 98.0%で，全国平均 89.5%を上回っています。

○**「いじめは，どんな理由があってもいけないことだと思う」**という設問に対して，「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせて 100%という結果でした。

⇒社会にはルールがあるということ，家庭でのルールも明確にしていただき，ルールを守ることが家族全体の幸せにつながるという実感をもたせていただければ幸いです。また，人を大切にする気持ち，もちろん自分も大切にする気持ちを持ち続けてほしいと思います。

地域や社会に目を向けられる子どもに！

○**「人の役に立つ人間になりたいと思うか」**という設問に対して，「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせて 95.9%で，全国平均とほぼ同じ結果となっています。

○**地域や社会とのつながり**に関しては，地域行事に参加する児童が多い傾向にあります。また，地域や社会で起こっている問題や出来事に関心をもつ児童も多くいます。しかし，地域社会でボランティア活動に参加した経験や地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらった経験は少ないと答えている児童が多くいます。

○新聞を読む率は低くなっていますが，テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている児童は全国平均同様高くなっています。

⇒地域行事に単に参加するのではなく，要員として役割を担わせるなどの社会貢献をさせていただけたら幸いです。ますます地域とのつながりが強くなるでしょう。３年生以上の総合的な学習の時間には，課題をもって学習することを通して，様々な事象に主体的に関わり考える学習を行っています。そこで，地域の人との関わりも取り入れていきたいと思います。